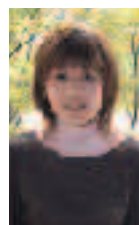


邦楽部



部長 [さとう えりな]

佐藤 江里奈

総合科学部
人間社会学科2年よみがえった
伝統のサークル古くて新しい伝統の音は
「いやし系」

和室での練習を見学して意外だったのは、けっこうたくさん部員数と、しっかりと音が出ていたことです。女性が多い中であつて、琴を弾いたり、音の出にくい尺八を吹いている男子部員にも少し驚きました。

かつて「琴と尺八の会」として存在した、日本伝統の楽器を奏でるこのサークルの活動は、10数年間途絶えたままでした。復活したのは7年ほど前。名称を「邦楽部」として活動を再開。現在は男子4名を含む20名の部員でがんばっています。

「昨年は邦楽部の存続をかけて勧誘にがんばりました。とにかく邦楽部の存在を知らせることに徹しました」と、部長の佐藤さん。4月には演奏会も開催してアピールしました。

コンサートで演奏する曲は、本格的な古典曲や現代邦楽だけでなく、ポピュラーや映画音楽など親しみやすいものを選曲しています。

「和楽器で奏でる現代の曲が受けたのか、おかげで1年生の部員がたくさん入部しました」和楽器の音色に

「いやされる」「かっこいい」と感じる人も多いそうです。

「琴や尺八、三味線など、聴く機会があつても触れることは少ない楽器に、音楽を好きな人が興味を示してくれたんじゃないでしょうか」

ほとんどの人が大学に入つて初めての経験です。琴は簡単に音は出ますが奥が深く、三味線はチューニングなど難しく、尺八にいたっては音を出すことから練習です。慣れない正座も大変です。時々、こっそりと足を崩しながらの練習です。

練習は、全体としては毎週土曜日の10時から昼過ぎまで、体育館(常三島)の2階の和室で、生田流正派大師範の藤本玲先生の指導のもと、真剣に繰り返し行われます。一昨年から顧問の英崇夫先生も尺八を教えてくれています。

夏休みには他大学との交流や合同練習も行つて腕を磨いています。そしてこれらの成果は大学祭や定期演奏会で披露。昨年は12月6日、コンデンホールで定期演奏会を開催し、邦楽のオリジナル曲をはじめ、ディズニー映画のメドレーなど、みんなの良く知っている曲も演奏しました。また昨年は初めて全国学生邦楽フェスティバルにも参加。着実に実力をつけています。

邦楽部への入部希望者は、土曜日の練習を見学してください。

